

Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/9/4(月)

ルツ記1章

さばきつかさが治めていた時代、イスラエルには酷い飢饉があった。ユダのベツレヘムのエリメレクが妻ナオミ、2人の息子マフロンとキルヨンを連れてモアブの地に滞在したところからルツ記が始まる(1-2)。息子は妻(オルパ、ルツ)を迎え、共に10年間暮らしていた(4)が、夫と息子2人が亡くなる。喪失の悲しみの中、ナオミは2人の嫁と一緒にモアブからユダの地へ戻ることにした(6-7)。★ルツはモアブに帰らなかった。モアブに帰れば、再婚して子供を持てたかもしれないが、彼女はそうしなかった(16~17)。なぜだろう。
★ルツのように、ある道を選択すれば確実に豊かになれると分かっている道を選ばず(ルツの場合はモアブに帰る)、神様の示される方へと進むことの祝福にはどんな祝福があるか、ルツ記から学んでいこう!

2023/9/5(火)

ルツ記2章

落ち穂拾いは、貧しい人たちのために神様が定めた方法だよ。レビ記19:9,10を読んでみよう。
●ナオミとルツは多くのものを失って故郷に戻りましたが、神様はそこでどのようにナオミとルツを守り、恵みを与えたのでしょうか?また、誰を用いたのでしょうか?
●今日の箇所のどんなところに、背後で働いてくださった神様の導きや助けを見ますか?あなたの人生にも、神様が背後で働いてくださったと思えることはあったのでしょうか?
★神様が今日、あなたを用いて、親切にしようとしている人は誰だろうか。神様のみこころのために用いてくださいと祈ろう!

2023/9/6(水)

ルツ記3章

ナオミはルツに、幸せになるための身の落ち着き所として、親戚ボアズの元へ行くことを提案する。具体的にこうしなさいということを示し、ルツはその提案を受け入れた。ルツはボアズとのやりとりで、「あなたの覆いを、あなたのはしのための上に広げてください」(9)と願い出た。そのようにしてボアズの保護に入ることは、主のもとで保護に入ることを意味した。ボアズは、ルツが自分の思いで再婚相手を探すのではなく、イスラエルの定めによって行動したことを誠実だとした。
主の導きに対し、誠実に応答できるよう祈ろう!

2023/9/7(木)

ルツ記4章

ボアズは買い戻しの権利がある親類に買い戻すかを尋ね、親類は最初は買戻す事を告げたが、ルツも引き受けなければならぬと分かるとボアズに権利を譲り、正式な手順を経てボアズのものとなった。
こうして二人は結婚し、男の子が与えられ、反映していくこととなった。

ルツ記は不幸で始まり、最後は喜びで終わっている。ルツが神のことばに従うことでこのような結果を生み出した。

信仰生活は平坦な道のりではない。どのような時も先にある神様の祝福を期待して歩もう!!

2023/9/8(金)

2コリント1:1-11

4vをゆっくり2回読もう!
●神様は①どんなときに②なにを、してくださると書いてある?
①
②
●神様が慰めを与えてくれるのは、私たちに、何ができるようになるため?
●今苦しい人は神様に祈ろう。また、自分の受けた慰めで「誰を」慰められるか考えてみよう。

2023/9/9(土)

2コリント1:12-24

コリントの教会ではパウロやアポロなど、どの人に従っていくかという考えで、好き勝手にグループが分かれ始めていた。
だけど、パウロは唯一の神様に、救いに目を向けるようはげましたんだ。パウロはいつも自分が神様の前にいることを覚えて、与えられた物事に誠実に仕え宣教していた。言葉だけでなく、行動でもそれを表し続けていたんだね。
私たちもいつも主の御前にいることを覚えて、神様が喜ばれることは何か考え行動してみよう!

2023/9/10(日)

2コリント2章

第一の手紙を送った後のパウロの最初の訪問は、パウロにとってもコリント教会のある人たちにとっても、悲しいものとなった。そこでパウロは二度とそのような訪問をすまいと決心する(1)。パウロはコリントの人たちの「喜びのために……働く者」だからである(1:24)。恐らくはその訪問の直後に送ったと思われるが、「涙の手紙」と呼ばれる辛辣な内容の手紙も、罪を犯した者が悔い改めて彼らと同じ喜びに与る者となるための、愛に満ちあふれた手紙であった(2-4)。最初の訪問の後、パウロはトロアスへ福音宣教のために向かい、そこで先にコリント教会へ遣わしたテロスと落ち合うことになっていたが会えず、マケドニアまで進んだところで会う(12-13、7:5-6)。テロスが届けた、コリント教会のパウロへの信頼と従順という嬉しい報告を(7:7)、パウロは神様に感謝する(14)。そこにキリストによる神様の勝利を見たからである。パウロは彼らの宣教を通して「キリストを知る知識の香り」が放たれ、彼ら自身が「キリストの香り」として用いられたと喜ぶ。
祈り 真っ直ぐにみことばを、愛を持って語る者としてください。